

■「釧路港北極海航路研究会」 …釧路港の取り組みについて

釧路港北極海航路研究会世話人（釧路市港湾空港振興課）

釧路港では、昨年11月30日に注目の集まる「北極海航路」に関する勉強会として「釧路港北極海航路研究会」を立ち上げました。

夏場の北極域の海水面積が大幅に減少していることから新たな航路として期待されていること、スエズ航路に比べて北海道では航行距離が約4割削減されるなど、その利活用に向けての期待が膨らんでいるものの、その具体的な取組に対して知り得ていることが少ないことから、経済界・港湾関係団体・行政が一体となり、情報収集や調査・研究のための立ち上げでした。

すでに、2回の会合を行っており、北極海航路の現状等の把握に努めているところです。

1回目は、北海道経済同友会北極海航路ワーキングのメンバーでもあった植木修康日本銀行釧路支店長（現京都支店長）をお招きして、経済同友会での取組の状況について理解を深めました。

2回目は、道庁物流港湾室の鈴木邦明参事等から「北極海航路の利活用に向けた道の取組」「北欧・ロシアにおける日本食品の輸入実態調査について」「ロシア・北欧調査より～骨棘海航路の利活用に向けて」などについて、お話しをしていただきました。

また、釧路港を利用させていただいております船社や荷主の皆様にも情報の提供を行うため、2月16日に東京都内で行いました「釧路港ポートセミナー」でも、（一社）寒地港湾技術研究センターの川合紀章理事長から北極海航路における北海道や釧路港の地理的優位性などについてお話をいただきました。

まだまだ、北極海航路という大きな課題の勉強に取り掛かったばかりですが、釧路港として何ができるのかを考えながら、国・道などの関係機関との連携を強化して取り組んでいきたいと思っています。

